

アンゴラ共和国月報

2017年8月号
在アンゴラ日本国大使館

主な出来事

【内政】

●23日に総選挙が実施された。8月25日時点の発表(開票率97%)で与党MPLAが61.10%の得票率を獲得。

【外交】

- 日本政府がアンゴラ政府に対し万博招致の支持を要請。
- EUが総選挙に関する声明を発表。

【経済】

- ドス・サントス大統領がカクロ・カバサダムの竣工式に出席。
- ドス・サントス大統領がラウカダムの除幕式に出席。
- ザイレ州ソヨの発電所稼働開始。

内政

1 選挙管理委員会が在外投票・期日前投票を実施しない旨発表。

ジュリア・フェレイラ選挙管理委員会報道官は、ロジスティクス上の限界のため、在外投票及び期日前投票は実施しない旨を発表した([NJ8/3](#))。

2 EU 専門家と選挙管理委員会の面談

アンゴラ総選挙の実施にあたりEUは5名の専門家を派遣。当初はEUから選挙監視団が派遣される予定であったが、内部手続きの関係で実現に至らず、2008年、2012年にEUが監視を実施した選挙との比較調査をするにとどまる。なお選挙監視団と異なり、今回のEU専門家グループは政治的コメントや最終報告書の発表は行わない予定([AP8/7](#))

3 ロウレンソ大統領候補がSADC監視団と面談

12日、ロウレンソMPLA大統領候補は、SADC(南部アフリカ開発共同体)監視団と面談し、選挙の準備に向けた進捗状況等に関する意見交換を実施した([PA 8/14](#))。

4 野党UNITAは反MPLAデモの実施を宣言。

14日、野党UNITAの大統領候補であるサマクヴァ氏は、与党MPLAが選挙関連法に違反しているとして、UNITA党员に対して全国的なデモを呼びかけた([CK8/14](#))。

5 社会通信規制局の人事が決定

14日、社会通信規制局(ERCA)の人事が議会にて承認された。社会通信規制局は、独立した機関で有り、ソーシャルコミュニケーション分野における規制・監督の権限を有する。任期は5年となっており、ルイス・アルメイダ氏ら8名が委員として決定し、次期国会会期中にさらに3名が指名される見込み([JA8/15](#))。

5 UNITA党员の離党

16日、フェルナンド・エイトール元国会議員がUNITAから離党し、MPLAのマニフェストは現実性があり、明確な目標があるとして与党MPLA支持を表明。なおエイトール氏によれば、UNITA離党にあたっては、ラウル・ダンダ同党副党首との不仲も原因であったと伝えている([JA8/17](#))。

6 副大統領候補が体調不良

3日、ボルニット・デ・ソウザ副大統領候補がクワンザ・ノルテ州での選挙活動中に脳梗塞(報道ママ)で倒れ、スペインに搬送された([PA8/4](#))。

17日、デ・ソウザ副大統領候補は、ベンゲラ州での選挙活動に復帰し、健康問題については解決したと述べた([PA8/18](#))。

7 国際監視団の到着

ペドロ・ピレス/カーボ・ヴェルデ元首相及びマヌエル・コスタ/サントメ・プリンシペ元首相が国際選挙監視団として、ルアンダ入りした(各紙 8/17)。

8 野党の反発

UNITA、CASA-CE、PRS、FNLAの野党4党は、選挙管理委員会(CNE)が、6つの選挙関連法の違反があったと主張。21日までに解決されない場合には、デモもしくは選挙ボイコットなど次の措置を取る旨を宣言。[\(VOA8/21\)](#)。

9 選挙概要

約930万人のアンゴラ人有権者が、6名の大統領候補からドス・サントス大統領の後継者を選出する選挙となる。アンゴラでは内戦時代を含めて4回目の選挙となり、国会議員を直接選出する選挙であり、最大得票率を獲得した政党の被選挙人名簿筆頭が大統領となる。内務省によると今次選挙の実施に向けて治安維持・安全確保のため約10万人の警察・警備担当者を動員する。なお前日22日までに登録がなされた国際・国内選挙監視員は440名([DW8/23](#))。

10 暫定結果の発表

25日、選挙管理委員会(CNE)のジュリア・フェレイラ報道官は第2回暫定選挙結果を発表。開票率98.7%の段階での各政党の得票率は以下のとおり。

MPLA	61.09%
UNITA	26.70%
CASA-CE	9.47%
PRS	1.33%
FNLA	0.91%
APN	0.49%

(各紙 8/25)

10 在アンゴラ米大使がアンゴラ総選挙を評価

24日、ヘレーナ・リメ在アンゴラ米大使は、国際選挙監視団との会合の際にアンゴラ総選挙は、国民に

とって大きな祭典となり、アンゴラの誇りとなる1日となったと評価した([JA8/26](#))。

11 野党による暫定選挙結果への批判

25日、野党 UNITA, CASA-CE, PRS, FNLA の代表者による記者会見が行われ、選挙の票集計にあたり野党側関係者が立ち会えなかった等を理由に、選挙管理委員会(CNE)が発表した暫定結果を承認しない旨を伝えた。また UNITA, CASA-CE 及び PRS は、各党がそれぞれ公式集計とは別に並行集計を行っていたが、同集計結果が選挙管理委員会発表の集計内容と著しく異なっていたことを指摘([PA8/26](#))。

外交

1 アンゴラ外務省がEUの批判に反発

アンゴラ政府がEUによる選挙監視団の派遣を拒否しているとして批判しているアナ・ゴメスEU議員に対し、エスピリト・サント外務省中東アフリカ局長が反論。同局長は、アンゴラの問題であってポルトガル人であるゴメスEU議長には関係ない話であり、アンゴラ共和国ならびにその国民に対し敬意を払うべきであると会見で述べた([AN8/1](#))。

2 日本政府が万博招致の支持を要請

1日、山際衆議院議員がピエダーデ・ドス・サントス国会議長を表敬し、日本政府の2025年の万博開催の立候補に関してアンゴラ政府からの支持を要請した。また同議員は、ドス・サントス国会議長が昨年訪日したことにも触れ、引き続き議員レベルでの交流を強化していきたいと述べた。同議長からは、アンゴラの経済多角化に向けて日本との協力関係を構築への関心が示された([JA8/2](#))。

3 セルケイラ文化大臣がコンゴ(民)訪問

3日、セルケイラ/アンゴラ文化大臣は、ンゲソ/コンゴ(共)大統領を表敬訪問し、ドス・サントス大統領の代理として、アンゴラ・ザイレ州都ンバンザ・コンゴの世界遺産登録に関するコンゴ(共)の支持に感謝を表明した。4日には同様の目的で、リーブルヴィル(ガボン)を訪問し、ボンゴ同国大統領を表敬する予定([JA8/4](#))。

4 イランが在アンゴラ大使館開設に関心

5日、シコティ外務大臣が、イランのハサン・ロハニ大統領の就任式に出席。その際に、モハメド・ザリ

フ・イラン外務大臣と意見交換を行い、同外務大臣より、2018年中の在アンゴラ・イラン大使館の開設への関心が示された。シコティ外務大臣によれば、二国間において、特にエンジニアリング、商業、工業、農業、肥料製造、観光等の経済分野で関係強化に向け取り組む点を確認した(JA8/8)。

5 コンゴ(民)避難民がロボアへ移動

8日、コンゴ(民)カサイ地域で発生している紛争から避難し、ルンダ・ノルテ州(アンゴラ)のカカンダ地区及びムスンゲ地区に滞在している避難民が、ロボアの難民受入れ地区への移動を開始した。同ロボア地区はルンダ・ノルテ州ドゥンド市から90km離れており、パランカ同州福祉局長によれば最大5万人の受入れが可能。なおアンゴラ政府は、コンゴ(民)避難民の受入れ対策として、16億4千万クワンザを支出している(JA8/8)。

6 独、干ばつ対策に向け100万ユーロ支出

11日、アンゴラ環境省の要望により、独政府はクネネ州で発生している干ばつの中長期的な対応として、100万ユーロを支出する旨発表(JA8/12)。

7 SADC 安全保障委員会の議長国へ

11~20日に南アフリカ(プレトリア)で実施される南部アフリカ開発共同体(SADC)政治・安全保障委員会にて、アンゴラが同委員会の議長国に就任する旨、サンドロ・オリヴェイラ・アンゴラ外務省 SADC 室長が述べた。また同室長は、アンゴラは特にレソトやコンゴ(民)の政治状況を注視しており、SADC地域における紛争予防に努めていく旨を述べた(JA8/11)。

8 EUが総選挙に関する声明を発表

29日、EUはアンゴラ総選挙に関する声明を発表し、多くの有権者が、平和裡の中で投票所に向かい民主主義へのコミットを示したと述べた。また選挙プロセスは透明性がしっかりと確保されて実施され、いかなる反論、抗弁も合法的な手段を用いてなされなければならないと伝えた(JA8/30)。

9 文化大臣がコンゴ(民)大統領を表敬

30日、カロリーナ・セルケイラ文化大臣は、ドス・サントス大統領の特使として、カビラ・コンゴ(民)大統領を表敬し、ドス・サントス大統領の親書を手交した。同書簡にはドス・サントス大統領から、アンゴラ・ザイレ州都ンバンザ・コンゴ市の世界遺産登録に向けた

コンゴ(民)からの支持につき謝意が表明されている。同表敬において、カビラ大統領からは、世界遺産登録への祝意を述べられるとともに、ンバンザ・コンゴのPRに向けてコンゴ(民)も協力する旨の返答があった(JA8/31)。

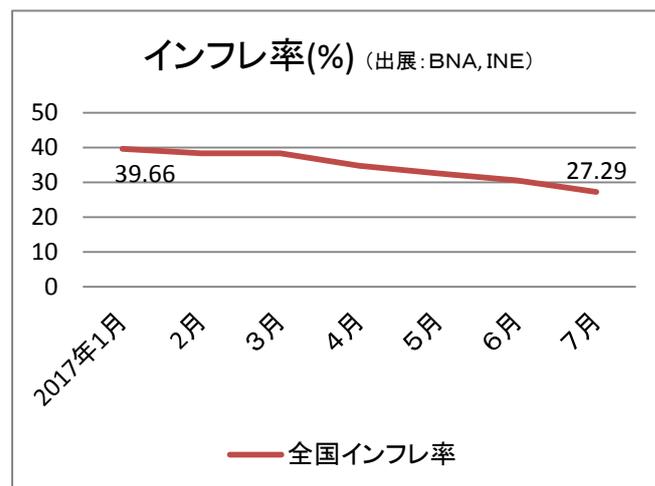
主要経済指標

(1)物価

ア 国家統計院(INE)が発表したアンゴラ全国における7月~8月間のインフレ率は、1.59%となり、前月より0.10ポイント下落。

イ 物価指数が前月比で最も上昇したのは、衣料品(3.11%)。

ウ 国家統計院(INE)が発表したアンゴラ全国の物価上昇率は7月時点で27.29%となった。前年同時期は33.72%であり、2017年1月から続くインフレ率の上昇率低下が反映されている。

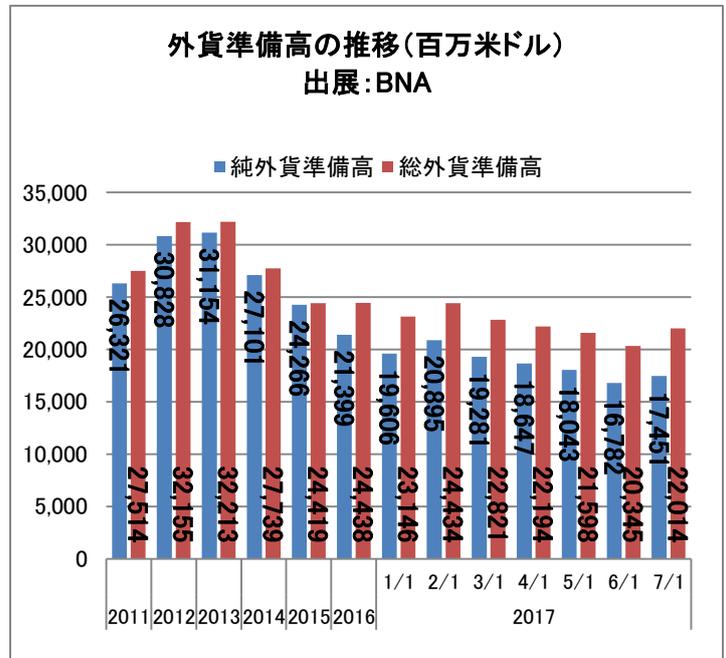
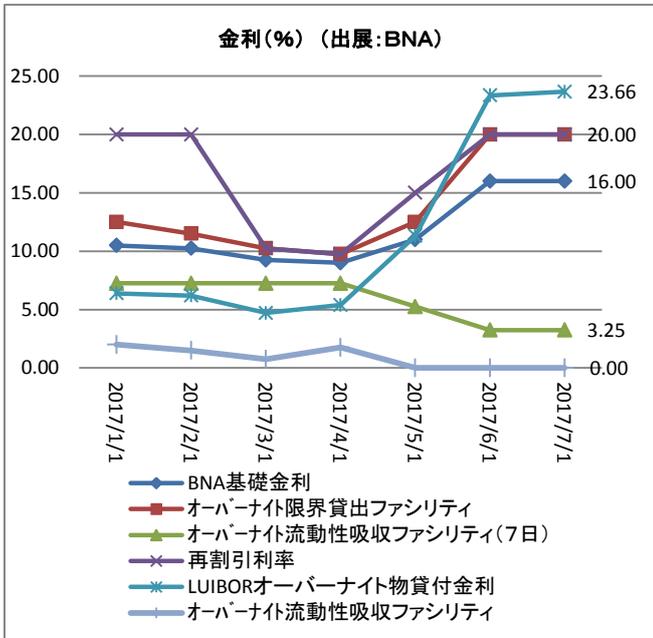


(2)金利

ア 8月31日に開催された第70回金融政策委員会(CPM)は、政策金利のBNA基礎利率(Taxa BNA)は、年率16.00%と前月から維持と発表。

イ 流動性吸収ファシリティ(市中銀行がBNAに預けている準備預金のうち、法定額を超過した部分に対する利率)は年率2.75%で維持。

ウ 限界貸出ファシリティ(BNA から市中銀行へのオーバーナイト物貸付金利)は年率20.00%で前月と変わらず。

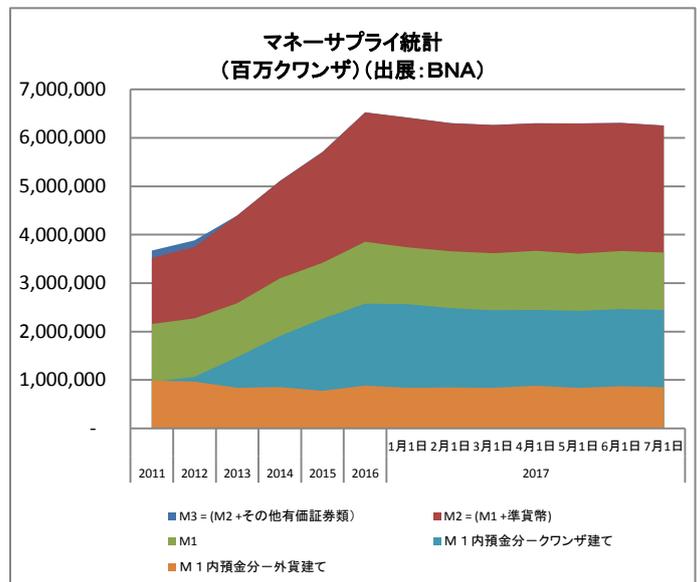
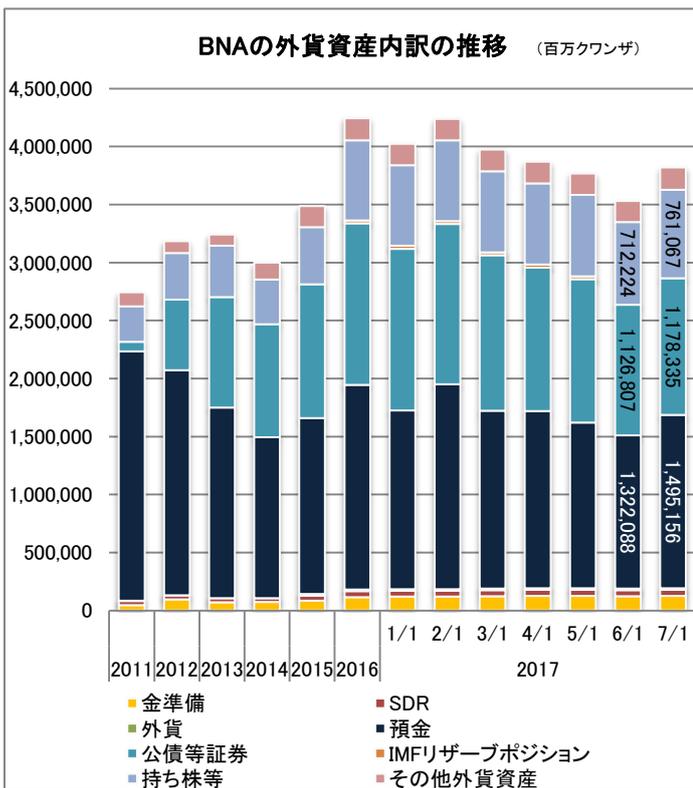


(3) 為替市場

7月末, 為替相場は1USD=165.92AKZで推移。

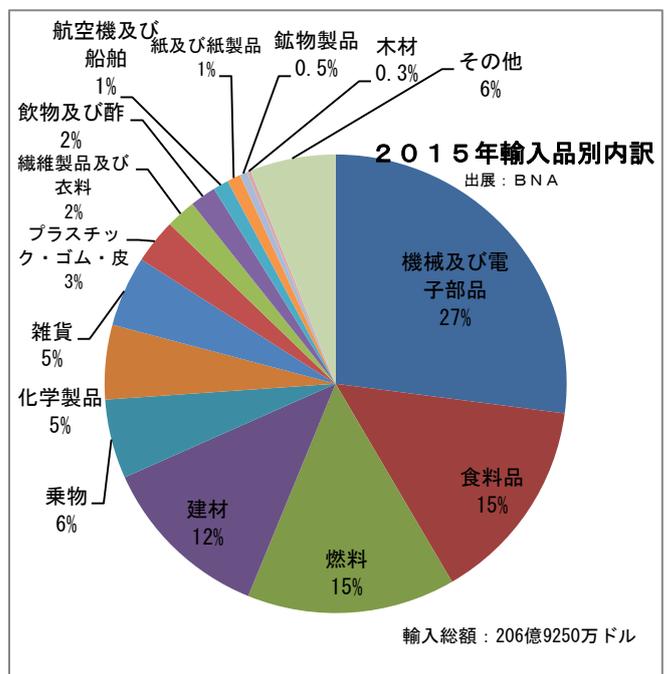
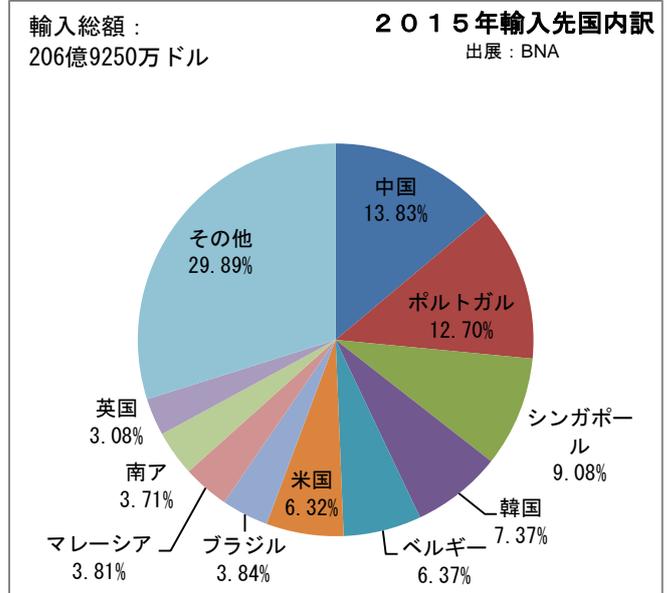
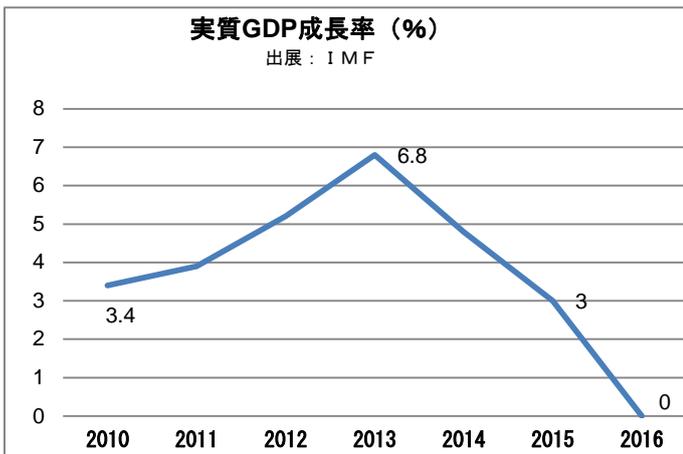
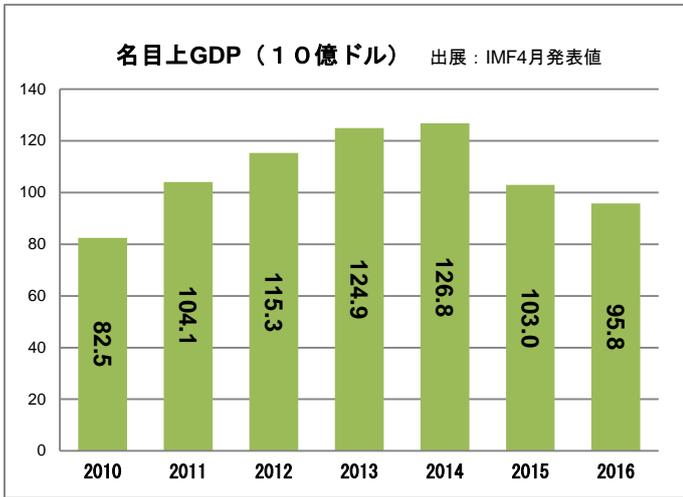
(5) マネーサプライ統計

(4) BNA 発表の外貨準備高統計

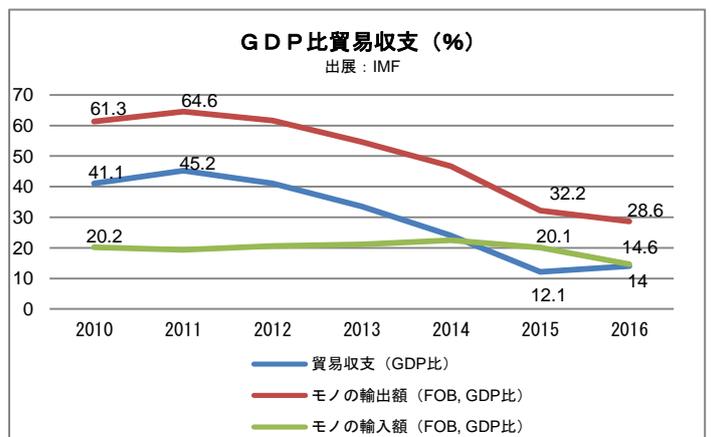
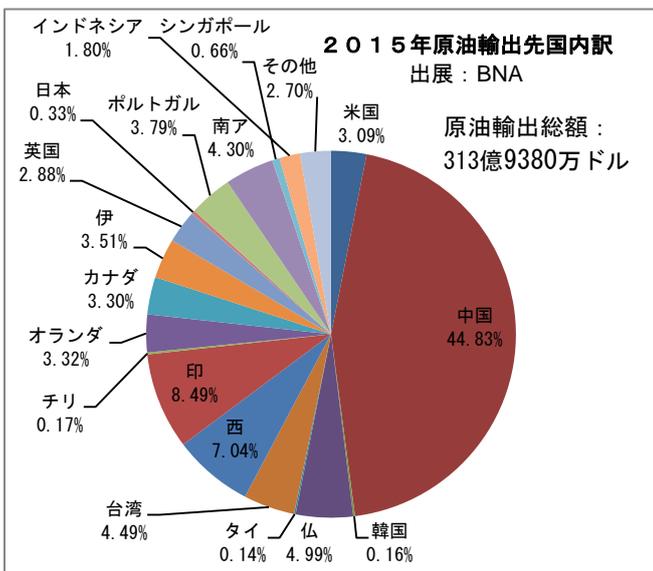


2017							百万クワンザ
1月1日	2月1日	3月1日	4月1日	5月1日	6月1日	7月1日	
6,420,683	6,307,030	6,267,569	6,303,541	6,300,288	6,311,111	6,256,880	M3 = (M2 + その他有価証券類)
6,416,863	6,303,125	6,264,311	6,300,258	6,296,969	6,307,748	6,253,470	M2 = (M1 + 準貨幣)
3,738,782	3,659,028	3,617,637	3,667,562	3,608,452	3,663,967	3,631,631	M1
335,890	329,595	341,031	338,915	344,557	330,052	332,938	M1内現金等流通分
3,402,892	3,329,432	3,276,606	3,328,647	3,263,895	3,333,915	3,298,693	M1内預金分
2,565,653	2,484,321	2,439,544	2,447,554	2,428,556	2,463,959	2,447,134	M1内預金分-クワンザ建て
837,239	845,112	837,063	881,093	835,339	869,956	851,559	M1内預金分-外貨建て

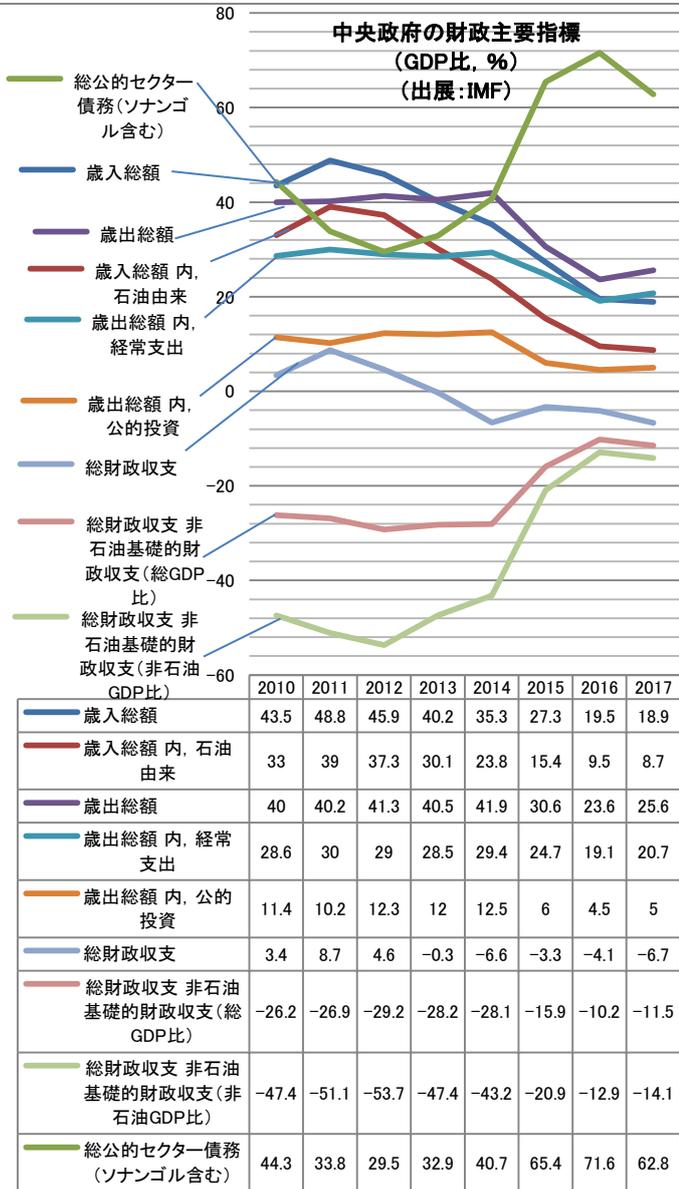
(6) GDP及び成長率



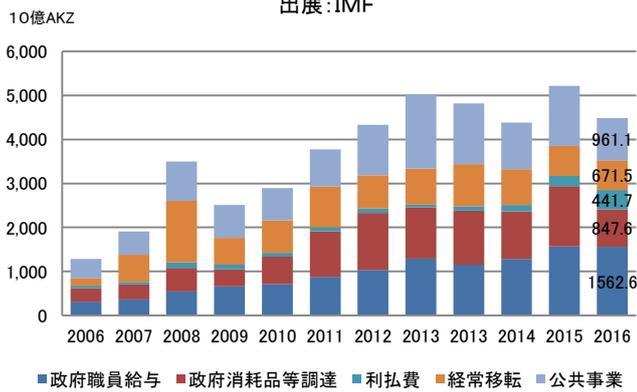
(7)主要貿易統計



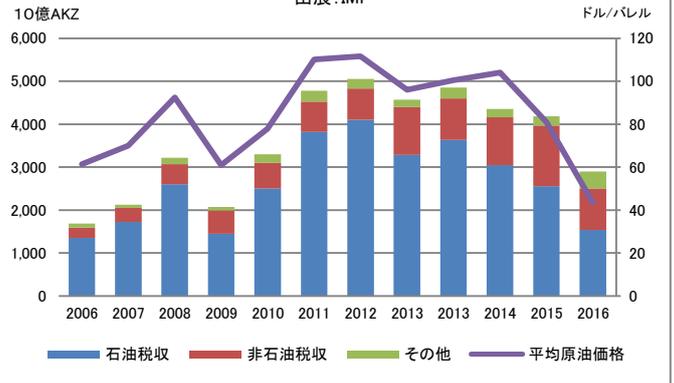
中央政府の財政主要指標 (GDP比, %) (出展:IMF)



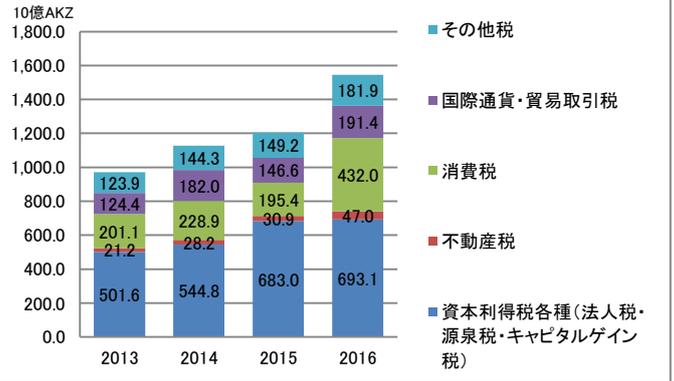
経常支出の推移 出展:IMF



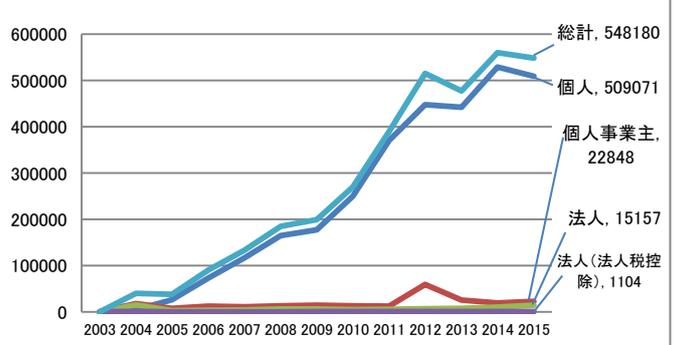
税収の推移 出展:IMF



非石油税収の推移 出展:財務省



納税者数の推移 出展:国税庁



経済

1 ダムの管理運営をオデブレヒトが担当

8月1日大統領令によれば、アンゴラ政府はカンバンバダム、ラウカダム、カパンダダムの管理、整備を伯オデブレヒト社が担当する旨を決定した。あわせて、2005年に稼働したカパンダダムの改修を伯オデブレヒト及びロシア企業によるコンソーシアムが請け負う。なお、同大統領令によれば、3つのダムのメンテナンスは総額で、9億9340万ドルとなる見込み(OBS8/4)。

2 大統領のカクロ・カバサダム竣工式出席

4日、ドス・サントス大統領はカクロ・カバサダムの竣工式に出席し、工事の先駆けとなる最初のブロックを設置。カクロ・カバサダムは中国のクレジット・ラインにより45億ドルの融資を得て建設され、最終的に2171メガワットの発電量を有し、アンゴラ最大の水力発電所となる。ボルジェス水・エネルギー大臣によれば、ダムの建設作業は約5年となり、2022年に完工見込み(JA8/5)。

3 ラウカ水力発電所の除幕式

4日、ドス・サントス大統領はマランジェ州ラウカダムの除幕式に出席。除幕式のクライマックスとして、発電所稼働のボタンをドス・サントス大統領が押し、1機目のタービンが稼働を開始した。同式典にはボルジェス水・エネルギー大臣も出席し、プロジェクト実施にあたりドス・サントス大統領から多大な支援を受けたとして感謝の言葉を述べた。ラウカ水力発電所は、2012年から工事が始まり、総工費は45億ドル。ダムは水位156メートルで6億立法リットルを貯水可能であり、フル稼働時は2070メガワットの発電能力を有する。完全稼働は2018年となる見込み。なお発電供給先はウアンボ州、クワンザ・スル州、ベンゲラ州となる(JA8/5)。

4 ザイレ州ソヨの発電所稼働開始

マヌエル・ヴィセンテ副大統領は、ソヨ複合式火力発電所の第一タービン除幕式に出席。インタビューにて同副大統領は、「エネルギー・道路等への投資なしに一国の経済が発展することはない、2017年を目指して行われた本プロジェクト

トを無事に実施でき、一仕事終わったという感覚である」と述べた上で関係者に謝意を表明した。なお工事は中国企業が行った。なお同式典には Cui Aimin 在アンゴラ中国大使や、水・エネルギー大臣、建設大臣、経済大臣、石油大臣やザイレ州知事及び同州選出議員らが同席(JA8/18)。

5 地質鉱山省がマランジェ州のダイヤモンド探掘承認

地質鉱山省が、民間企業5社に対し、マランジェ州及びルンダ・ノルテ州のダイヤモンド探掘を承認。同省令によれば、同5社には1年間の探掘権が付与される(4年まで延長可能)。参画するのは、Brilho do Mussende 社、Twala Kumoxi 社、Pesquisa e Recursos Minerais 社、Txapemba Ganguba 社、L&Lコメルシオ社の5社(OBS8/17)。

6 イザベル氏がガラス瓶製造に投資

イザベル氏(ソナンゴル取締役会会長)が代表を務めるビール製造グループ Sodiba 社が、ガラス瓶製造工場の設立に向けて1億2千万ドルの投資を決定(OBS8/18)。

7 財務大臣が葡・中に対して謝意表明

18日、アルシエル・マンゲイラ財務大臣は、ルアンダ州ボアヴィスタ地区及びサンビザンガ地区の交通網整備にあたり、融資を行った中国及びポルトガルに対し謝意を表明した(JA8/19)。

8 ユーロ債発行

4日付け大統領令 228/17 号により、20億ユーロ分のユーロ債発行が決定された。同大統領令で財務大臣が必要な手続きを行うとされている。27日の財務省発表によれば、現段階ではユーロ債発行を担当する銀行は見つかっていない。同発表では、2015年10月に初めてユーロ債を発行したことも言及されており、「アンゴラが国際資本市場との関係を構築する上で重要な一歩となった」と述べられている(JA8/28)。

9 ソナンゴル取締役会会長就任に関する係争

前大統領長女であるイザベル・ドス・サントス氏が、国営企業ソナンゴル社の取締役会会長の就任したことへの異議申し立てにつき、8月24日、憲法裁判所は同申し立てを棄却した。本異議申し立ては昨年6月に12名の弁護士が行

い、イザベル氏のソナンゴル会長就任が公務員
法に違反すると申し立てていた。憲法裁判所の
決定によれば、弁護団の提出した証拠書類は

十分でなく違反を決定するに至らないとの由
([JA8/31](#))。

JA: Jornal de Angola, EX: Expansão, MH:Macau Hub, DN: Diario de Noticias, NJ:
Novo Jornal, VOA: Voice of America, CK: Club-K, AA: All Africa, AN:Ango Notícias,
OBS: Observador, AP: Angop, A024:Angola 24 horas, FT: Financial Times, PA: Portal de
Angola, EIU: Economist Intelligence Unit, DW: Deutsche Welle